

利尻島杵形港において捕獲されたアオイガイ

佐藤雅彦

〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

A Greater Argonaut, *Argonauta argo*, Captured at Kutsugata Port, Rishiri Island, Northern Hokkaido

Masahiko SARO

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. A female greater argonaut, *Argonauta argo*, was captured by fisherman at Kutsugata port, western Rishiri Island, northern Hokkaido on October 17, 2012. Supplementary records of this species in Rishiri, Rebun and Wakkanai are also reviewed.

アオイガイはカイダゴ科に属する軟体動物で、世界の温・熱帯海域に分布、メスだけが薄い貝殻を形成し、浮遊する（奥谷，2000）。西日本の日本海側や北海道沿岸においても大量漂着例が知られているが（志賀，2007）、道北北部における本種の漂着例などについてはあまり報告例がない（鈴木，2006；船木・佐藤，2009；オホーツクミュージアムえさし，2012）。本報では，2012年10月17日に利尻島西部の杵形港においてアオイガイ1個体が生きたまま発見された例のほか，1例を報告するとともに，これまで筆者が知る限りの利尻，礼文，稚内における漂着例を記す事とした。

なお，2012年における漂着例については石川卓矢さん，上遠野浩志さん，稚内などにおける過去の漂着例については堀内淳さん，疋田英子さんに貴重な資料や報告についてご教示いただいた。志賀健司さん（いしかり砂丘の風資料館）には本種の道内における漂着情報の提供や，本文の校閲をいただいた。これらの方々から感謝申し上げます。

2012年における利尻島の漂着として以下の2例を報告する。

まず最初の例は10月17日の朝，利尻島杵形港において石川卓矢さんが港を浮遊しているアオイガイ1個体を発見し，網ですくいあげた。この個体（図1）は生きたまま利尻町立博物館に持ち込まれ，その後標本とされた。殻の大きさは殻長114mm，殻高70mm，殻幅37mmで，殻の中心の基部にはうすい黄色を呈したおよそ3cmほどの長さの卵塊が1つ付着していた。利尻島における本種の確認例は筆者が知る限り本例が最初のものと思われる。



図1. 杵形港で捕獲されたアオイガイ。



図2. 稚内市声問海岸に漂着したアオイガイの殻（撮影：疋田英子さん）。

2例目は筆者が10月25日に利尻富士町大磯の海岸（北緯45°14'22" 東経141°10'20"）にて、波打ち際から約2mほど離れた打ち上げられた海藻類上で発見した破損した殻によるものである。軟体部は既に失われ、殻自体も破損があったが、その大きさは欠損部を補正して計測し殻長79mm、殻高45mm、殻幅29mmの数値が得られた。極めて薄い殻で形成されているアオイガイの殻は破損しやすく、利尻島では溶岩により形成された岩場による海岸地形が多いため、これらのことが同島での本種の漂着発見例が少ない一因になっているものと想像された。

これまでの利尻・礼文・稚内周辺地域でのアオイガイの漂着例としては、礼文島については船木・佐藤（2009）が2006年における殻の漂着例を報告しているほか、稚内市では2010年10月22日に稚内市声問海岸で疋田英子さんが漂着した殻を発見し、撮影を行っている（疋田、私信、図2）。1カ月の間に断続的に複数の場所で見つかった例として

は、1998年の記録がある。1998年10月1日に稚内港で1個体、同月3日に宗谷港1個体、4日に利尻島（利尻沖または礼文島西海域でイカ釣り船により採取された）2個体、7日に稚内沖1個体、23日に稚内前浜1個体、27日にノシャップ沖1個体が、稚内ノシャップ寒流水族館に持ち込まれた（堀内、2001；日刊宗谷、1998）。志賀（2007）では本種の大量漂着の変動が地球環境変動の指標になる可能性が指摘されており、今後も本種の道北北部における漂着については各地で丹念に記録を残していく必要がある。

参考文献

- 船木 梓・佐藤雅彦, 2009. アオイガイ（カイダコ科）の礼文島における記録. 利尻研究, (28): 11-12.
- 堀内 淳, 2001. 寒流水族館にやって来た暖かい海の生き物たち. 社団法人日本動物園水族館協会北海道ブロック秋季飼育技術者研究会レジュメ資料.
- 日刊宗谷, 1998. 水族館に"珍客". 平成10年10月7日版. 宗谷新聞社.
- オホーツクミュージアムえさし（編）, 2012. 乙忠部沖でアオイガイ揚がる. オホーツクミュージアムえさし通信, (154): 3.
- 奥谷喬司（編著）, 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会. 1174pp.
- 志賀健司, 2007. 北海道石狩湾岸におけるアオイガイの大量漂着. 漂着物学会誌, 5: 39-44.
- 鈴木明彦, 2006. 北海道石狩浜へのアオイガイの漂着. ちりばたん, 37(1): 17-20.